



今年は雪の日も多く、寒さも厳しい日が続いていることから、梅の開花もずいぶん遅れている。昨年は1月末には咲き始め、しだれ梅も2~3分となっていたと記憶しているが、今年はどうやら3月中旬頃が見ごろとなりそうだ。かつて春の永代経に見ごろを迎えた年もあったことからそれに次ぐ年となりそうだ。

さて冬季オリンピックもコロナ対策の厳戒の中ではあったが、大きな問題もなくフィナーレを迎えることができた。各国選手団の精いっぱい躍動は、見るものに多くの感動を与えてくれた。100分の一秒、1000分の一秒を競うスピードスケート競技は主観を交えない、正に速さを競う厳しい競技であることから、その緊張と感動はまた一入であった。

オリンピックに参加できたことに喜びを感じ、大いにオリンピックを楽しんでいる選手、自己の可能性に果敢に挑戦している選手、様々な姿が見受けられたが、等しく感じられたのは、やはり国を超えてのスポーツマンシップの美しさだった。

一方、オリンピック開催中にも関わらず、戦火は絶えず、戦々恐々とした状況が世界を脅かし続けていたことは事実である。平和と戦争、この裏腹な心を抱えて生きる人間の現実の姿を見せつけられた思いであった。

緊急なお知らせ

春季永代経は中止とさせていただきます。

本年はこのほか寒さが厳しく感じられます。コロナの感染も爆発的に広がり、終息の気配もさほど実感されないうまま現在に至っています。感染力が強いことが何より気がかりなことでもあり、感染すれば重症化することも案じられることから、本年度の春の永代経は中止させていただきます。

昨年は報徳会の関係で取りやめとなり、引き続きの中止ということになり、門徒各位にはまことに申し訳なく思っております。尚、お勤めにつきましては内勤めとさせていただきます、住職、若院、寺族にて執り行いますのでよろしくご理解のほどお願い申し上げます。

またお灯明代につきましては、集めないことといたしますので、合わせてよろしくお願いいたします。

合掌

お釈迦さまと阿弥陀仏(阿弥陀如来)は同じ仏さま？

あるお宅のご法事での質問でした。率直に分らないことを尋ねてくださったことをとてもうれしく思いました。確かに私自身も仏教を学び始めたころ同じ疑問をいただいたことがあります。ある意味では仏教に関心をいだき始めたころの素朴な疑問ではないかと思えます。

お釈迦さまは今から2600年前にインドで生まれられた地球上でたった一人、仏のさとりを開かれた方です。そのお釈迦さまが先生と仰がれたのが、阿弥陀といわれる仏さまなので

蓮如上人は「阿弥陀仏は三世十方諸仏の本師本仏となり」と教えられています。大宇宙には数えきれないほどの仏さまがいます。大日如来や薬師如来、奈良の大仏などもみな十方諸仏の中の一仏なのです。もちろんお釈迦さまもその中の一仏なのです。

阿弥陀さまが本師本仏といわれる理由は、他の仏にない優れた力を持つていらっしゃるからです。そのお力については「光明無量」「寿命無量」という言葉で説明されますが、次回の説明とさせていただきます。

しだれ梅観梅会のポスターです。



先月号でもお知らせいたしましたでしたが、今月下旬から「しだれ梅観梅」と秀瑤書院「書と墨彩画展」を開いております。
中止も考えておりましたが、町内のつりびなに合わせて行っています。感染対策も十分行っていますので、お時間があればお立ち寄りください。

今月の掲示板

浄土真宗に帰すれども
真実の信心はありがたし
虚仮不実のわが身にて
清浄の心もさらになし

「真宗聖典」五〇八

我が家のペット クーちゃん

我が家にはおおよそ6歳になる「クーちゃん」というオカメインコがいる。
ラブバードといわれ、とても人懐っこい鳥。仕事中でもかまってほしいと耳をついたりもする。おしゃべりも少々。電話の音が大好きで、呼び出し音に「クーちゃん、おはよ」と繰り返す。また勝手に電話の機能ボタンを押し流れるお姉さんの声に聞き入ったりして楽しんでいられるおかしな鳥でもある。
困るのは糞と、木をかじりたがる癖があること。糞は小さいのでティッシュで軽く取れますが、かじり癖は気を付けているほか仕方ありません。

この和讃には浄土真宗に帰依したからといって、嘘偽りの多いわが身が、清浄な心になるわけではありません。むしろ煩惱まみれで生きている自分に気づかされてくるのです。この煩惱は私たちが命終わるまでなくなることはないのです。
ただ私たちにとって大切なことは、念仏し聞法し続けよう中で、この身の事実に気づかされ続けようことが大切なことだと思われのです。
この「わが身」もなおよす。如来の智慧のはたひれ「わが身」もなおよす。

12回目

こころの散歩



光受寺御遠念法要



【新コーナー】 十二回連載 樹林
宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年立教開宗協賛テーマ
南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねて
問いつける歩みとともに

神と仏 神祇不拝を問う

親鸞聖人の念頭には、仏か神かの区別は、初めから存在しなかったと言われます。浄土和讃にも「天神地祇はこごとく善鬼神となづけたり」これらの善神みなともに念仏のひとをまもるなり」とあります。そして宇宙には諸天善神がひしめいており安楽を願ひ、幸福を守護していると考えられていたとされています。こうして神祇不拝の立場が必ずしも神祇否定を意味するものでなかったと見るのが妥当のようです。



浄土真宗は弥陀一仏にこだわる傾向があり、神を排除する場面もあつたようですが、その後の歴史において本地垂迹説が唱えられ、神仏混交がすすみました。縄文以来の神の信仰は、日本の精神文化の根底にあり、現在も、各戸に併せ祈る習慣が根付いています。
神仏はともに慈悲を体現するものとして崇拜するのが望ましいと思われれます。

学習会・金曜喫茶は9月までお休みとなります。